

競技を始める前に

本競技ルールブックは育成者の皆様が、子どもたちに「彩の国 21世紀郷土かるた」の使用をする際の手引きとして使用していただけるよう、埼玉県競技必携を元に解説します。

所沢大会では、「彩の国 21世紀郷土かるた」を通して仲間づくりを勧めるとともに、ふるさと埼玉を理解し、郷土愛を高め、子どもたちの健全育成を目的としています。

かるた競技は勝負にこだわることなく、かるたを楽しみ、ルールを守って礼儀正しく、みんなで仲良く指導しましょう。

競技の方法

競技に必要な係

競技進行係

- 「試合の進行アナウンス」を参考に、競技がスムーズに行えるよう努める
- 試合中にコート審判員の赤旗が上がったら読み手に伝え、試合を中断させる
- 試合時間を計り、速すぎたり遅すぎたりした場合は、読み手に伝え調整する

読み手

- 1試合が20分くらいで終わるよう、間合いを取って正確にはっきり読む
- 読み札の「ま」の札を最後に10枚に残さないように切る

審判員

- 各コートに1人配置し、読まれた札がどちらが先取したか公平に判断する
- 審議を迅速に判断し、スムーズな競技進行ができるように努める
- 進行を妨げるような問題が発生した場合は、赤旗を上げて進行係に中断を知らせる
- 選手への指導・注意を促す
- 試合結果を記録カードに正しく記入し、対戦表に結果を記入する

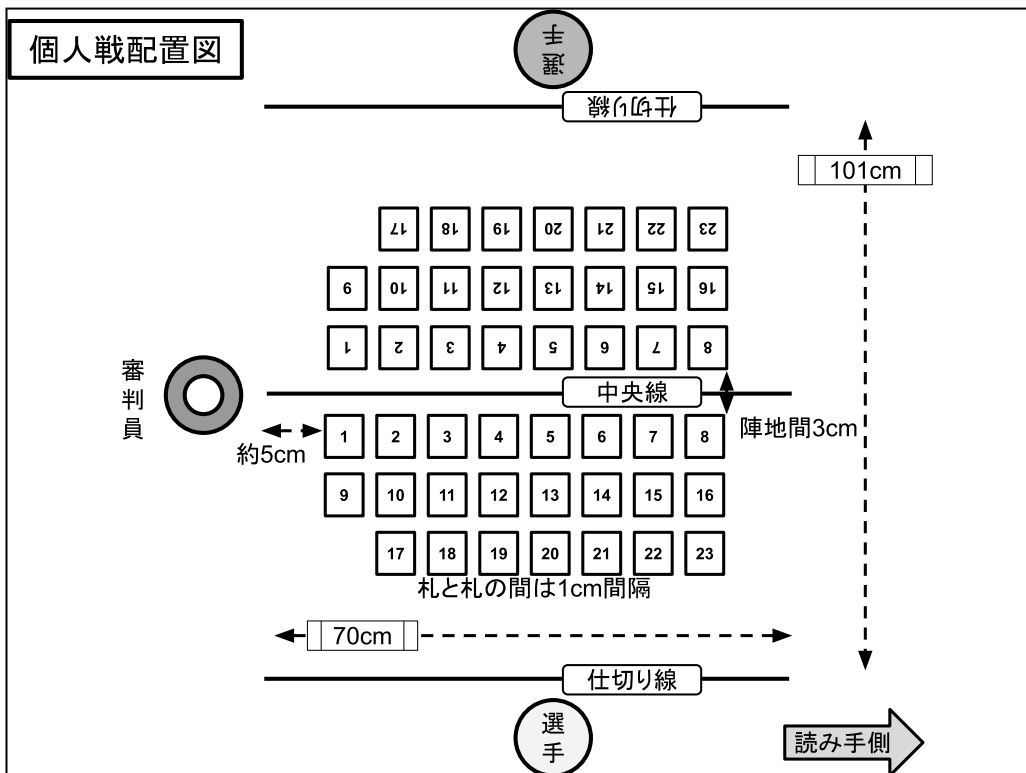
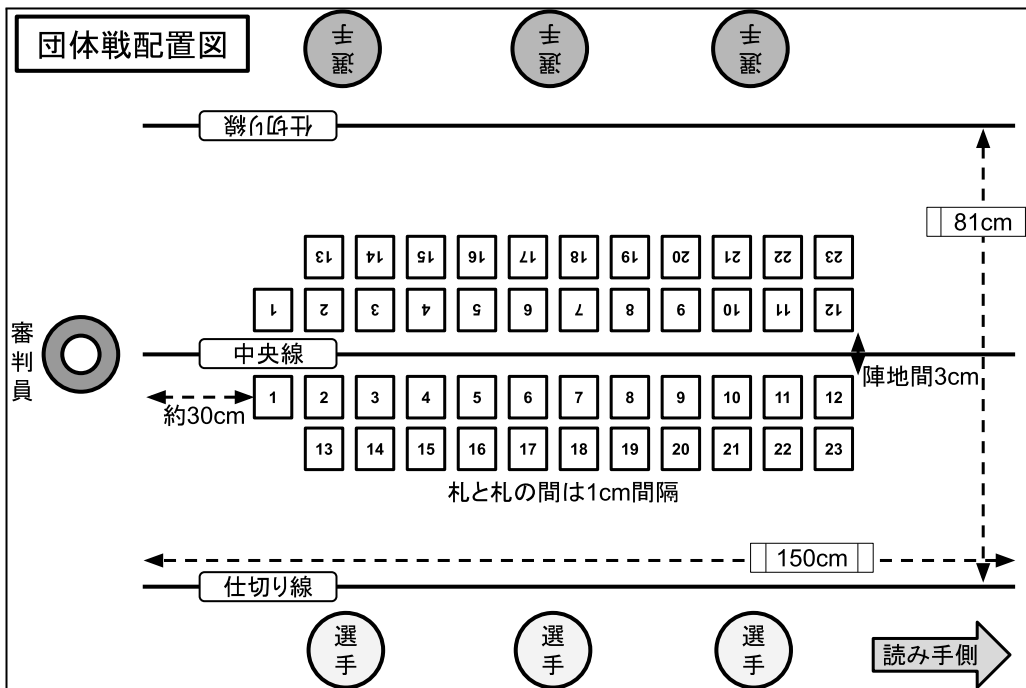
コート作りと札の配置

コート作り

- 団体戦は【幅150cm×縦81cm】、個人戦は【幅70cm×縦101cm】
- 選手側に『仕切り線』、その中間には『中央線』をテープ等で引く

札の配置

- 審判側から、団体戦は約30cm、個人戦は約5cm離し、番号順に札を並べる
- 陣地間の札間の幅は3cmとし、自陣の札間の幅は1cmとする
- 団体戦は中央線側から2段【12枚、11枚】、個人戦は3段【8枚、8枚、7枚】と並べる



競技ルール

札の並べ方

- 審判員は山札をコート中央に置く
- 団体戦は中央の人、個人戦はお互いにジャンケンをする
- ジャンケンに勝った人が取り札を切り、二つに分けてコート中央に置く
- ジャンケンに負けた人はどちらかの札を取り、勝った人は残った札を取る
- 団体戦は真ん中の人、個人戦は本人が、自分の陣内の審判側上段から並べる
- 並べ方は『コート作りと札の配置』を参考

基本姿勢とマナー

基本姿勢

- かかととお尻をつけた状態で正座し、膝を20cmくらい開いて座る
- 札が読まれるまで手は膝の上に置く
- 前傾姿勢は45度くらいまでとし、陣地線より肘、膝、頭を出してはいけない

試合マナー

- 試合に関係のないおしゃべりや、札を取った時などに歓声を上げない
- 試合中に札の枚数を数えない
- 札を取るときに、故意に弾いたり、飛ばしてはならない
- 札が乱れた時は審判が直すか、選手に直すように指示をする

試合の進行

試合準備

- 進行係の指示に従い、札を並べる
- 札を並べ始めてから2分前後で、進行係は『1分間の記憶時間』と指示を行う
- 記憶時間終了後も札が並び終わっていない場合には、審判は赤旗を上げて進行を止める
- 読み手は「から札」として『ま』札を2回読み、試合開始の予告とする
- 「から札」の次に読まれる札から取り始める

試合開始

- 読み札を読み始めたら、コート内の全部の札から1文字目が書かれている札を取る
- 各コートでおてつき等で進行が滞った場合には、試合を止める
- 試合再開するときは、進行係が「それでは続けます」といった後に、読み手は次の札を読む

残り2枚

- 審判員は札の向きを変えずに、中央線上に約30cm離して横に並べる
- 読み手が「から札」を2回読んだ後、次に読まれた札を、取る（団体戦では中央の人のみ）
- 最後の2枚のうち、読まれた札を取った方が、残りの札も取る

試合終了

- チームごとに取り札の枚数と「ま札」の有無を確認する
- 審判員は記録カードに枚数を記入する（記録カード 参考）
- チームの代表者は記載された枚数を確認し、サインをする
- カードを集めて山札にしてコート中央に置き、進行係の合図でお互いに礼をする

取り札の判定

ルール

- 読み手が読んだ札を、読み手相手よりも先に触れた人が札を取る
- 手が重なったときは、下の手の人が取る
- 両手を使ったり、体を使い札に覆いかぶさってはいけない

同時

- 両チームの選手が同時に読み札に触れた時は、陣内（正対向き）のチームが取る
- 最後の2枚：2枚とも陣内（正対向き）のチームが取る

お手つき

読み手が読んだ札とは違う札に触れたとき

- 取り札の山から一番上にある札を相手に1枚渡す
- 同じ読み札中は誰が何度「おてつき」しても1枚だけ渡す
- 「おてつき」した人も正しい札を取り直してよい
- 取り札の山がない場合、札を渡さない

最後の2枚のとき

- 取り直しはできない
- 取り札の山から一番上にある札を相手に1枚渡す
- 両チームとも「おてつき」した場合は、読まれた札と残った札の2枚とも審判預かりとなる

おてつきにならない

- 「から札」が読まれたとき
- 目的の札を取る際に、意図せず誤って札に触れてしまったとき（審判が判断する）

取り残し

読み手が取り札を2回読むあいだに、札を取れなかった場合、札はそのまま残し、試合を続ける

- 最後の2枚になり、進行係が残っている札を知らせ、それ以外の札は陣内（正対向き）のチームが取る

取り間違い

間違って札を取り、試合がそのまま進行したとき

- 取り間違いが分かった（読まれた札がない等）時点で、試合を止めて両チームの取り札から探し、間違ったチームは「おてつき」として、一番上にある取り札を1枚相手チームに渡す
- 間違った札は、審判員がもとにあった場所に戻し、取り残し札扱いとする
- 間違った札の元の場所がわからない場合には、相手チームの陣地に置く（札を相手の向き）

所沢ルール

- 既に読まれた札はコートに戻さず、相手チームに渡す

審判預かり

- 【0枚または2枚】：最後の2枚で両チームともおてつき

審判の判定の流れ

- | | | |
|---------------------------|---|----------------|
| 1. 一人の選手が札に手をのせる | → | その選手が取得 |
| 2. 二人の選手が時間差で札に手を載せる | → | 速い選手が取得 |
| 3. 二人の選手が同時で札に手を載せ、重なっている | → | 手の重なりが下の選手が取得 |
| 4. 二人の選手が同時で札に手を載、重なっていない | → | 陣内（札の方向）の選手が取得 |

勝敗判定

- 合計枚数の多いチームが勝利となる
- 同数の場合には、「ま札」を取っているチームの勝利となる（ま札はふつう札扱い）
- 相手チームが棄権の場合、「取った枚数」欄に23対23、ま札欄に○をつけて、ま札勝ちとする

記録カード

所沢大会では、大会のしおりにある対戦表と試合結果をもとに記録カードを記載

個人戦 低学年 対戦表（例）

ブロック	A			B		
コート番号	1	2	3	4	5	6
第1試合	南C 清進A	安松B 伸栄A	泉C 美原A	牛沼A 南A	泉B 美原B	南B 清進B

記録カード記入例

注意点

- 個人戦や低学年など該当する項目に○をつける
- 下記記入例の太字のところを記入する
- ま札は取ったほうだけに○を記入

第 回 「彩の国21世紀郷土かるた」 所沢大会記録カード
 団 **個** 高 **低** 審判名： 野原 みさえ

ブロック	試合	コート番号		
B	1	5		
チーム名（校区名）	取った枚数（枚）	ま札（○）	判定（○×）	サイン
泉B	① 22		×	須藤
美原B	② 24	○	○	沢田
審判預かり枚数	③ 2			
枚数合計（46枚） （①＋②＋③）	④ 46			

試合の進行アナウンス

試合開始前

1. 試合開始前に選手がいないコートは審判員が旗を揚げてください。
審判員がいないコートは選手が旗を揚げてください。
2. ただいまから（予選リーグ戦・決勝トーナメント戦）の第___試合を始めます。
審判員は対戦チームを確認してください。 お互いに礼。
3. 審判員は、取り札を真ん中においてください。
4. 団体戦は真ん中の人、個人戦はお互いに、じゃんけんをしてください。
5. ジャンケンに勝った人は、取り札をよく切ってください。
6. よく切ったら半分に分けて、少し距離を離して真ん中に置いてください。
7. ジャンケンに負けた人は、どちらかの札を取ってください。
8. 残った札は、ジャンケンに勝った人がとってください。
9. 真ん中的人是、自分の陣内の審判側から並べてください。
10. 札の並べ方は、団体戦は2段（12枚、11枚）、個人戦は3段（8枚、8枚、7枚）です。
（カッコ内の枚数は第1試合のみ読み上げる）
なお、札と札の間隔は、上下左右ともに1センチぐらい離し、並べてください。
11. それでは記憶に入ります。（約1分）→あと30秒です。（並べ始めてから約3分くらい）
12. ハイ、記憶やめ。試合を始めます。札を取るときは大きな声で「ハイ」と返事をしてください。
13. 読み手は、_____さんです。それでは始めます。

試合中

14. （協議途中で赤い旗が揚がって、引き続き競技を始めるとき、赤い旗が揚がっていないことを確認してから）それでは続けます。
15. 残りが2枚になりました。札は（___）と（___）です。※残っている2枚の札を言う
審判員は札を30センチ離して中央に並べてください。団体戦のチームは、真ん中の人が残りの、両端の二人は後ろに下がってください。 それでは続けます。

試合終了

16. 試合が終了しました。審判員は取った枚数を正しく記録カードに記入し、選手（団体戦は真ん中の人）に確認のサインをもらって、記録係に渡してください（記録係が回収したのを確認）
17. 選手の皆様は立ち上がり、静かにお願いします。
18. 第___試合はこれで終わります。審判員は勝ったチームに旗を揚げてください。
降ろしてください。 姿勢を正して、お互いに礼。

第 回 「彩の国21世紀郷土かるた」 所沢大会記録カード

団・個 高・低

審判名： _____

ブロック	試合	コート番号		
チーム名（校区名）	取った枚数（枚）	ま札（○）	判定（○×）	サイン
	①			
	②			
審判預かり枚数	③			
枚数合計（46枚） （①＋②＋③）	④			

第 回 「彩の国21世紀郷土かるた」 所沢大会記録カード

団・個 高・低

審判名： _____

ブロック	試合	コート番号		
チーム名（校区名）	取った枚数（枚）	ま札（○）	判定（○×）	サイン
	①			
	②			
審判預かり枚数	③			
枚数合計（46枚） （①＋②＋③）	④			